

2015年3月期 決算会社説明会での主な質疑応答

- Q. 2015年3月期の配当について、1株当たり配当額20円という水準は、通期業績に対するものか、それとも半期業績に対するものか。
- A. 2015年3月期の配当水準については、
- ・基幹電源である伊方発電所3号機の再稼働が実現していないこと
 - ・2015年3月期業績は、燃料価格の急激な低下など一過性の要因による押し上げ効果が反映された利益水準であること
 - ・毀損した自己資本の回復をはかる必要があること
- などを総合的に勘案した結果、通期業績に対する配当額として1株あたり20円いたしました。
- Q. 今後の株主還元に対する考え方は。
- A. 伊方発電所3号機の再稼働時期を明確に見通すことができないことから、2016年3月期の業績水準および配当予想については、「未定」といたしております。
- 株主還元に関しては、「安定的な配当の実施を株主還元の基本とし、業績水準や財務状況、中長期的な事業環境などを総合的に勘案して判断する」ことを基本方針としておりますが、この方針に沿って、今後とも安定的に配当が継続できるよう、最大限努力してまいります。
- Q. 今後の財務目標は。
- A. 連結自己資本比率について、期末時点で21.5%となっておりますが、2010年度実績の25%を当面の目安として、早期に達成できるよう自己資本の上積みをはかってまいります。
- なお、25%を達成した後の水準については、今後、検討を進めてまいります。
- Q. 電力小売全面自由化を見据えた事業戦略は。
- A. 当社は、発電分野において原子力や石炭火力など経済性に優れた電源比率が相対的に高いという特長を有しております。このため、こうした当社の特長を最大限発揮することによって、電力卸取引市場での販売拡大や四国域外での小売事業への参入などを指向してまいります。